

台湾の学校防災関係者とセミナー、学校視察を開催しました（2025/4/10-11）

テーマ：学校防災、防災教育、台湾教育部、国立成功大学

会場：東京大学駒場キャンパス、東京都府中市立府中第八中学校、東京都北区立堀船小学校

4月7日～13日、台湾各地の小・中学校の校長や地方自治体の防災教育・啓発に関わる関係者など33名が、「市町村防災教育関係者国際交流プログラム」のために来日し、日本の防災に関する研究者や教員らと交流しました。このプログラムは、台湾の防災教育関係者を継続的に育成することを目的とし、①海外の交流や研修を通じて、他国の経験や技術を学び、国際的な視野を広げること、②協力と交流を深化させ、現地に根ざした防災教育推進の取り組みを学ぶことにより、各参加者が経験とスキルを積み重ね、自らの能力を内面化し、学校の地域状況に即した形で活用することなどを目指しています。

当研究所の防災教育実践学分野、および防災教育協働センターでは、この研修を企画している台湾教育部と国立成功大学と、昨年来交流を継続しています。

今回の研修では、10日には桜井愛子クロスアポイントメント教授（神戸大学／防災教育実践学分野）が、小田隆史特任准教授（客員）（東京大学／防災教育実践学分野）の本務先である東京大学駒場キャンパスにおいて学校防災をテーマとする学術交流セミナーを開催し、登壇した桜井教授は、阪神淡路大震災以降、30年間展開してきた日本の防災教育の現状や課題について講演しました。また11日には、佐藤健教授（防災教育実践学分野）が同行し、東京都内の学校で先進的な取り組みを行っている府中市立府中第八中学校と北区立堀船小学校を訪問し、先進校が取り組む防災教育の実践について学ぶとともに、熱心な質疑応答や意見交換が行われました。

一行は滞在中、東京大学地震研究所をはじめとする災害や防災に関する研究機関や学習施設を訪問し、首都圏における防災教育・啓発の実情に関して理解を深めました。同研修は、台湾教育部が国立成功大学と協力して2016年から毎年実施されているもので、昨年は、宮城県を訪問先として当研究所においてセミナーを開催しました。国際交流のさらなる発展が期待されます。



学術交流セミナーの様子



府中市立府中第八中学校訪問の様子



北区立堀船小学校訪問の様子